看護研究推進委員会Ｈ５年度のまとめ

平成５年度看護研究発表会が終了し集録作成の運びとなりました。
看護研究の歴史は昭和45年に開始し今年で23年目になりました。その間，各科１題の発表を義務づける事から出発し自発的研究へと移行されました。

また研究発表会の運営は，座長を看護部の任命された看護婦が行うことから始まり，副婦長にまかされたり，副婦長研修の一環となったりし今年度から教育委員会の下部組織として位置づけられました。

これまで看護研究発表は，看護研究の浸透，研究内容の向上，しいては看護ケアーの向上を大きな目的として活動してきましたが，実際は「発表会をどうもりあげていくか」が活動の柱でした。しかし数年前より発表会にとどまらず，委員会として『看護研究』の質の向上や研究意識の高揚をめざしていかなくては，ということが話し合われるようになりました。さらに今年度の計画にあたり当院の看護研究に対する問題点として，「研究方法がわからない」「指導者がいない」「主体的な研究が少ない」「発表部署は毎年同じになってきている」などがあげられました。そこで今年度は委員会としての目標に「看護研究が定着できるようにサポートする』とし医療短大の楊箸先生，三上先生，麻原先生に協力していただき，看護研究のための講義・指導を受けることができ発表会にいたりました。

以下に今年度の企画，運営をまとめてみました。

１．講義「より良い研究のために」医短　楊箸　隆哉先生

1993.4.19　14:00～16:00　出席者　47名

・研究は好きでやるもので興味を持ったものをやること。
・一番大切なことはノイエスをもつこと。
・ノイエスをみつけるためには文献をたくさん読むこと。

２．講義「看護研究テーマ相談日」医短　楊箸　隆哉先生

1993.5.10　14:00～16:00　出席者　30名

・統計について講義。
客観性のためには数量化や数値化が必要。
実験研究だけでなく再現性は必要。
・テーマの相談
産科・北３・北５・中７・中６・南７・南６・南５・南４

３．講義「事例研究について」　医短　三上　れつ先生

1993.5.19　14:00～16:00　出席者　43名

・一つの事例をまとめることでなく，ありのままの事象を分析する。
・看護研究の分類からみると事例研究は低レベルの段階である。
・現象・事例を積重ね段階を踏みながら理論化していく。

4．講義「論文の書き方」　医短　楊箸　隆哉先生

1993.8.2　17:40～19:15　出席者　43名

・同じ内容でも目的，対象によりプレゼンテーションの仕方は違う。

・自分たちのノイエスを言うために比較材料が必要となるが，他人の言っていることは必要である。しかし最小限にひかえる。

・スライドはどこの会場にいっても入るように横にした方がよい。

・スライドは一枚につき言いたいことは一つ。多くても二つ以内。

・謝辞は一人一人，どこが誰にと書く。

5．講義「調査研究について」　医短　麻原きよみ先生

1993.1.14　17:40～19:20　出席者　42名

・研究とは看護の質を高めるために行うものであり対象の人達が幸福になるためのものである。

・問題に気付きこれを主体的に問題解決するプロセスが自分の力を付けて行くことになる。

・数の検証ではなく質の検証にして行きたい。

・個の集団でいえることが全体の母集団でいえるかというのが調査研究。

・テーマの選定は，これはおかしいと思う直観しかない。

6．平成5年度院内看護研究発表会

1993.10.29　9:34～14:48　出席者　98名

18題を5群にわけ発表

スライド使用　13題　ビデオ使用1題

・各係り，役割分担

進　　行　西原・矢ケ崎

総合記録　草深（タイムキーパー・まとめの要約）

受　　付　小高（アンケート作成・回収・出席者名簿作成）

会　　場　由上・矢ケ崎・中島（質問のマイク管理も含む）

スライド　堀金・金井（前日までにスライドの手配・当日作業）

座　　長　（担当群の司会・質疑・記録）

一群　中川・丸山京　　二群　鰐川・宮崎

三群　竹内・根井　　四群　西沢・塩原喜

五群　古根・堀内

・係会反省

1）会場・準備について

・イス86席準備し間に合った。

・第3会議室　机があってよかった。

・柱があり位置的に見えないところもあった。
・発表者席は会場に向けるとよかった。
・演題にライトがなく懐中電燈で不都合だった。
・マイクは共鳴してしまうので話す人のみスイッチをオンにする。

2）日程・時間・出席者について
・院外主催の会と重なった。
・発表時間が7分を越えたものがほとんどで，昼食時間が30分と短くなった。時間を演者に知らせたほうがよかった。
・午後の人数が幾分減ったが，自分の部署だけ聴いて帰る人もなかった。

3）スライド他
・前日に提出がなく係が取りにいった部署もある。
・スライドの作り方が年々向上している。
・会場での資料の配布は無意味ではないか。

4）質疑応答について・活発な意見がでてよかった
・発表者が答えない，座長をとうさない質疑があり座長は修正すべき。
・座長と発表者が同一部署のところがあった。
・全体のスケジュールに余裕をもたせる。
・発表時間を厳守してもらう。
・質問のないときはひとつくらい聞いて終わりにする。
・質疑の内容や会場の盛り上がりをみながら群の中で調節する。

5）その他
・群分けはよかった。
・演題もっと多くでてほしい。
出たら全部発表するという形でゆく。

今年度の研究発表は18題ありました。昨年度に比べ題数も参加者もほとんど変化はありませんでした。しかし会場での意見交換は活発に行われ，時間超過するような場面もありました。

今年度企画の講義に参加した発表者も多く，発表者からは「事前に相談したい」「参考文献の選び方を知りたい」「文章の書き方言葉の使い方を知りたい」「相談者が欲しい」などの具体的な意見が聞かれました。

また部署別アンケートによると，今後も看護研究のための講義を全部署希望しており，看護研究への取り組みを基本から学びたい様子がうかがえました。そこで次年度も看護研究の理論的なことを学びながら，より多くの人が看護研究に取り組むめることができるようにしたいと考えています。

看護研究推進委員　西原・矢ケ崎・草深・小高・由上
教育担当副部長　　太田